

# 大切な心と体を守るために

2年生 保健体育（科目：保健）



指導のポイント

- 抽象的な話に終始せず、「断りづらい空気」や「親密さゆえの油断」といった現実的なリスクをリアルな場面設定でシミュレーション（危険予知）し、どのように自分と相手の安全を確保すべきか（回避策）を具体的に考えることができるようにする。
- 人との安心できる「距離感」について、自分の考えをもつこと、そして他者の考える「距離感」を尊重せず、踏み越えることは「安全な社会」に対してのルール違反であることについて理解を深めることができるようにする。

本授業の位置付け

高等学校学習指導要領（保健）との関連

### 3 内容

#### (2)安全な社会生活

- イ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えそれらを表現すること。

#### (3)生涯を通じる健康

- イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

使用教材・準備物・留意点

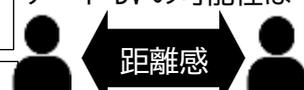
- ・内閣府男女共同参画局 資料「人と人とのよりよい関係をつくるために」を活用。
- ・文科省「生命(いのち)の安全教育」の教材(高校生向け)スライドを活用。

- ・授業導入時に、自作のSNS投稿写真風の加工をしたAI画像を使用し、危険を予測する活動を行った。
- ・二次被害防止のために、居づらくなったら退室できるような配慮をする。
- ・授業後に、担任や養護教諭、SCとの連携による相談体制をつくる。

※スライド・イラスト：文部科学省「生命(いのち)の安全教育」の教材より引用

## 本時の展開

本時の目標 ○日常生活やSNS上での具体的な場面において、相手との距離感や言動に潜む危険（リスク）を予測し、安全を確保するための適切な意思決定・行動選択を判断できるようにする。

学習内容・活動等	留意点等																
<p>○危険を察知できるか試してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS 投稿写真事例から気付くことは何か</li> <li>→場所が特定される →個人が特定される </li> <li>・ 他人との適切な「距離感」を意識していないと…</li> </ul> <p><u>自分の心や体の安全を守れない可能性が</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>心と体の安全を守るために、人との「距離感」をどのように意識していけばよいのだろう。</p> </div> <p>○自分の心や体の安全が脅かされそうな事例を基に、人との「距離感」について考え、交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>事例1 彼氏から部屋に行こうと誘われた。</p> </div> <div style="text-align: center; width: 40%;"> <p>好きだけど…？ デート DV の可能性は</p>  <p>距離感</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>事例2 付き合っている人のスマホをチェック</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>事例3 SNS で知り合った人との交流</p> </div> <div style="text-align: center; width: 40%;"> <p>断りづらい…？ 騙される可能性は</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>事例4 SNS で怪しいアルバイトの誘い</p> </div> </div> <p>&lt;適切な意思決定・行動選択のためには&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「嫌だ」という意思表示・会わない（一人で行かない）</li> <li>・ 冷静になる・相談する・事前に調べる</li> </ul> <p>○データや実際にある事案から、性暴力、性被害のリスクについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS は便利だが、距離感を崩すアイテムにもなる</li> <li>・ 被害者の多くが同年代 ・被害者は女性に限らない</li> <li>・ 性暴力には、体に触る暴力、触らない暴力がある</li> <li>・ 被害者非難は二次被害に→悪いのは加害者</li> <li>・ 被害に遇ったら、加害に気付いたら→助けを求める</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい人間関係は、自他尊重と適度な距離感から</li> <li>・ 自他ともに尊重し合える関係性を普段から育むことが大事→性暴力を防ぐ</li> </ul> </div> <p>○本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習を通して気付いたり、考えたりしたこと</li> <li>・ 今後の生活で取り入れたいこと</li> </ul> <p>○被害についての相談方法、相談先の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習中に不調を来して退出したい等の場合は教師に申し出てよいこと等を伝える。</li> <li>・ AI で作成の写真（イラスト）資料を提示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例を基に考えをグループや全体で交流し、「距離感」やリスクの捉え方、感じ方が多様であることを理解できるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」のデータを提示し実態を捉えられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">加害者との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>交際相手・元交際相手</td> <td style="text-align: right;">29%</td> </tr> <tr> <td>配偶者・元配偶者</td> <td style="text-align: right;">27%</td> </tr> <tr> <td>職場・アルバイト先関係者・客</td> <td style="text-align: right;">12%</td> </tr> <tr> <td>学校・大学の関係者</td> <td style="text-align: right;">5%</td> </tr> <tr> <td>SNSなどで知り合った</td> <td style="text-align: right;">4%</td> </tr> <tr> <td>その他顔見知り</td> <td style="text-align: right;">16%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>全く知らない人</td> <td style="text-align: right;">12%</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悩みを一人で抱え込むことが無いよう、相談方法や相談先について具体的に紹介する。</li> </ul>	交際相手・元交際相手	29%	配偶者・元配偶者	27%	職場・アルバイト先関係者・客	12%	学校・大学の関係者	5%	SNSなどで知り合った	4%	その他顔見知り	16%	その他	10%	全く知らない人	12%
交際相手・元交際相手	29%																
配偶者・元配偶者	27%																
職場・アルバイト先関係者・客	12%																
学校・大学の関係者	5%																
SNSなどで知り合った	4%																
その他顔見知り	16%																
その他	10%																
全く知らない人	12%																

※スライド：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

## 本実践の成果と課題について

### 性暴力・トラブルにつながる様々な事例の活用

文部科学省の「生命（いのち）の安全教育」の教材にある補足資料（事例集）を用いて、様々な事例（デートDVやSNSの危険性、セクシュアルハラスメントやJKビジネスなど）を準備した。身近に起こり得る具体的場面を通して「そのとき自分はどうするか」を切実な問題として考えることができ、資料活用の効果を感じた。また、事例を基にグループワークを行ったことで、危険の兆候を察知するポイントや判断の分かれ目等について、他者の感じ方や価値観の違いを実感して理解しながら、危険察知の重要性や安全な行動基準を主体的に考えることができた。

### 生徒の「意識・実態調査アンケート」を用いた授業構成

本校では単位制移行期間（平成14年）から現在まで、生活・健康に関する意識・実態調査アンケートを毎年実施している。その結果から、「生命（いのち）の安全教育」に関連する部分を抽出し、生徒にフィードバックした。アンケート結果を活用することで、生徒が自らを客観視し、同年代の多くが同様の悩みや関心を抱えていることを実感することができた。また、本校全年次の意識傾向や「性に関する正しい情報を得たい」と思っている現状を生徒自身が実感したことで、不安感が軽減され、安心して相談したり正しい情報を求めたりしようとする態度の形成を促すことができると感じた。

### 生徒の様子・ワークシートの記述から

多くの生徒が自身のネットリテラシーを振り返り、SNSへの安易な書き込みや投稿が危険であり、性暴力の被害・加害・傍観につながり得ることを理解していた。また、これまで友人との関係や距離感に悩んできた生徒も多く、自分の心身を守ることに加え、友人や周囲の人を大切にすること、相談しやすい雰囲気づくりの重要性、その場の感情に任せた軽率な行動を避け、見通しをもって意思決定・行動選択を行う必要があることを再認識していた。

さらに、SNSトラブルを抱えた友人から相談を受けた経験のある生徒も多く、これまでの対処を振り返って反省する様子も見られた。「生命（いのち）の安全教育」は不可欠であり、高校2年次に学ぶ機会を得たことは大変有意義であったとの振り返りもあった。

### 安心して学習できる体制と今後の展望について

本校は単位制であり、授業はホームルームとは異なるメンバー構成で行われるため、生徒同士の関係性が希薄になりやすく、また男女比が偏る場合も見られた。そのため、グループワークの実施にあたっては、安心して対話できる環境を整える必要があると考え、事前の関係づくりや進め方の工夫を行った。

また、過去に性暴力被害や人間関係上のトラブルを経験した生徒が在籍している可能性を踏まえ、具体例が過度に現実的となることで不快感や心理的負担を与えることのないよう配慮した。具体的には、事前に保護者へ連絡を行うとともに、授業中に途中退室を認めること、保健室での相談が可能であることなどをあらかじめ周知した。

今後は、保健体育科のみで扱うのではなく、特別活動におけるホームルーム担任による実施や性教育講演会との併用（年次全体への指導が可能）、養護教諭による特別授業、さらには他教科との教科横断的な取組についても検討していきたい。